

東海聖書神学塾 塾報

2025 年 7 月

第 80 号

460-0022

名古屋市中区金山 2-1-3

金山クリスチャンセンター 3 階

☎・FAX 052-321-7516

郵便振替 00860-7-65807 東海聖書神学塾

E-mail tokai.seisyo.singakujuku@gmail.com

<http://tts.jpn.org>

「地に落ちて死ななければ」

米国の出身神学校が財政難により、カナダの提携校に買収され移転することになったと、4 月に突然ニュースを耳にしました。にわかには信じられませんでした。調べてみると確かに 2026 年に移転と合併をすると同神学校 HP にアナウンスされていました。母校が、それも魂の学び舎であり、自分の召しと重荷を形造る場となった神学校が、事実上閉じられるのは想像を超えた衝撃でした。それとともに三つの気づきに導かれました。

「神学校もつぶれるんだ……。」それがまず去来した思いです。学校や大学の盛衰は常であり、この世に未来永劫などというものはないことは、もちろん分かっていました。それでもなにがしかの伝統があり、それなりに用いられてもおり、他でもないみことばを教える神学校が簡単になることはないどこかで思っていました。永遠に朽ちないものはこの神学校や当神学塾が教える「神のことば」の他には一つもないのだと、改めて心を引き締めました。たとえ神学校が閉ざされても、そこで撒かれ、そこから携えられたみことばは決して朽ちず実を結びます。「草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ」（イザヤ 40:8）。



東海聖書神学塾 教師
日本福音キリスト教会連合
朝日聖書教会 牧師
加藤 光行

米国福音主義サイドの新聞にこの件が記事になり、神学の大学院のほとんどは苦戦しているとのコメントが紹介されていました。いわんや日本の神学校でしょう。しかし、当神学塾は今もお立たされている事実、それが二つ目の気づきです。この神学塾のためにこの地の諸教会、クリスチャンたちがどれだけの祈りと献げものを積み、歴代の教師やスタッフたちがどれだけ犠牲と献身を払い、塾生や卒業生たちがどれだけ愛を注ぎ、誠実を尽くしてきたかを思い、新参者の私として心からの感謝と敬意を表します。何にもまして、真実の神が確かなご意志とご計画をもってこの神学塾を立たせ続けた、主のあわれみが心に迫りました。「実に、私たちは滅びさせなかった。主のあわれみが尽きないからだ」（哀歌 3:22）。

先の新聞記事に、いわば積年のライバル校のような別の福音的神学校の元学長が、この件についてコメントしていました。「卒業生は革新性と影響力で知られていたが、学校自体はそれほどではなかった。誠実ではあったが、創造性はなかった。」出身校が地に落ちたかのように言われたようで悲しかったです。しかし、地に落ちていいのだ、これが最大の気づきでした。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます」（ヨハネ 12:24）。神は時にかなって学び舎を用い、みこころによって学び舎を閉じるでしょう。しかし、閉ざされ、地に落ちてこそ用意される想定外のハーベストという不思議な希望を握りつつ、みことばの学びに日々誠実でありましょう。



春のリトリート

4月6～7日 犬山国際ユースホテル



春のリトリートは、渡辺陸夫師を講師に迎え、「ジャンルを大切に聖書を読む」と題して講義をいただきました。聖書は神様のことばであり「これにふさわしく読む訓練が必要であること」、「個人的に教えられ、恵まれ、分かち合い生きていく必要があること」をゴールとして、なぜジャンルを大切にするのか、聖書解釈のための七つの基本原理、ジャンル別の聖書解釈の概要、旧約・新約のナラティブについて、講義と分かち合いを通して理解を深めました。聖書を自己流ではなく正しく読むことの重要性と、それに基づいたデボーションの実践方法を教わる、貴重な学びの時でした。今回は塾生とOBあわせて17名、藤森師が参加し、講義以外にも食事や自由時間を通じて豊かな交わり時を持つことができました。よき学びのとき、交わりのときが与えられたことに、感謝します。（信徒奉仕者コース6年 山内望美）



9月27日（土） 「第2回 次世代育成者のための研修会」

今年も多治見バローホールで行います。

さまざまな超教派のミニストリーと東海聖書神学塾が協力し、また東海地区の東海宣教協力会（TMA）の働きの一環として、今年も「次世代育成者のための研修会」を準備しています。

教会学校の教師のみならず、学生や青年のミニストリー、子育て中のご両親や、賛美のミニストリーの方など、教会の次世代に向けたさまざまな働きの助けとなることを願って研修会を用意しています。ぜひ、さまざまな方の参加を期待しています。

TMA（東海宣教協力会）「次世代育成者のための研修会」担当

東海聖書神学塾 研修会担当：鴨下直樹（同盟福音 芥見キリスト教会牧師）

* 巻頭言 加藤光行師のプロフィール

担当 新約聖書緒論（前期）、新約聖書神学（後期）、ギリシャ語初級

2021年から専門科の新約2科目を担当しています。四国は香川から愛知に来て8年経ちました。香川でも西日本宣学院（現在休校中）で教えていました。

私は北海道生まれ、祖父母4名がみなホーリネスの背景を持つ三代目クリスチャンです。後に現在所属するJEC Aの教会に移り、高2で受洗しました。就職を機に上京し、同じJEC Aの浜田山キリスト教会に身を置き、聖書神学舎に派遣して頂きました。信徒、神学生、副牧師と続けて浜田山教会にお世話になり、任期満了後、米国シカゴのトリニティ神学校に渡りました。米国での留学経験、特に勉学は信じられないほど過酷でしたが、それ以上に替えのきかない宝の3年半となり、現在の牧会と教師の働きを決定付けています。新約聖書でTh.M.（神学修士号）を修了し、当塾でも新約を専門に教えています。修士論文を新約における「奥義（ミステリオン）」を教会論的な視点で著し、奥義なる教会は私にとってのライフワークにもなっています。

2025 年度入塾式は 4月4日(金)に行われました



新入塾生の紹介

教職志願者コース



栄聖書教会
山内 幸子

2008 年米国にて、ヨハネ 8:12 のみことばによって主イエスに救い出して頂いた時から、自分に与えられた残りの地上生涯を全て主にお捧げしたいという思いが与えられてきました。それはみことばが指し示すように夫に仕える妻として生きていくことだと信じて信仰生活を歩んできました。家庭と教会に仕えるために自身が整えられるようにと 2015～2017 年に女性奉仕者コースで学びました。途中長女が救われ、卒業後夫が救われ、長女の夫が救われる恵みに預かりました。その後夫の転勤により、フランス、ベルギー、英国にクリスチャン夫婦として遣わされることになりました。日本語教会での教会生活、教会奉仕、個人伝道の機会も与えられて幸いな信仰生活を過ごしてきました。帰国後、私の変わらない献身の思いを知っていた夫が「自分が支えるから、あなたは献身の召しに答えなさい」と背中を押してくれて、再び神学塾での学びを始めることになりました。教会のみなさんのたくさんの励ましと祈りにも支えられて一歩踏み出すことができました。これからの歩みもこれまでと同じように主が一歩一歩導いてくださることに信頼して、従っていきたいと願っています。

信徒奉仕者コース



活けるキリスト一麦教会
菅家 容子

私は大阪堺市の生まれで、祖父母、両親、隣に住む叔母夫妻、皆クリスチャンで、心を合わせ家の教会を建て上げる大家族で育ちました。幼少期に信仰を持ち、大学時代は KKG で信仰の自立、信仰の友との出会い、海外宣教への関心が深められました。卒業後、一年間留学したフィリピンの地でローマ 12:1 から献身を決心し、帰国後、関西地区 KKG 主事として 3 年間奉仕しました。その後結婚に導かれ、1995 年に OMF 宣教師として夫婦でカンボジアに派遣され、11 年間奉仕（主に学生伝道）しました。2008 年に帰国し、OMF 日本委員会総主事の働きをし、2019 年に名古屋に戻り、OMF 国際主事として奉仕する夫と共に母教会一麦教会に集っています。今後の歩みを祈り求める中、1 月、教会の祈祷会で 2 テモテ 2:15 「真理のみことばをまっすぐに解き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神に献げるように最善を尽くしなさい」のみことばが語られ、夫や教会のサポートのもと、神学塾での学びの道がさあ〜っと開かれました。与えられた学びの機会を心から感謝し、主の御前に最善を尽くしたいと願っています。



浜松福音自由教会
村木 智恵子

私は 2002 年のイースターに受洗しました。その喜びもいつの間にか熱くもなく、冷たくもない信仰生活に変わってしまいました。主は私にある学びの場へと導かれたのです。救いを得ていても、主の愛が受け取れない領域をお示しくださいました。過去は変わりませんが、その出来事の意味が変えられて、初めて健全な自己肯定感を持つことができたのです。すると、私を愛してくださる主に応えたいとの思いが少しずつ育まれていきました。以前に教会に送られてきた当塾のパフレットに目が留まりましたが、その時は主の導きはありませんでした。昨年の秋のことです。礼拝に向かう私の進行方向とは逆に、観光地へ向かう車の列に滅びの道を行く彼らの救いを祈るよう、主からの促しがありました。この日を境に、見知らぬ人への救霊の思いが強くなったのです。主が定められた地上の時間を、陶器師であられる主の御手で整えていただき、望まれるままに用いていただきたいと願っています。

行事報告

- 3月14日（金）理事会と評議会がありました。卒業式はありませんでした。
- 3月17-18日（月・火）一泊教師研修会が、すいとびあ江南でありました。
- 4月1日（火）より前期授業が開始されました。
- 7月3-6日（木～日）にかけて夏期教会実習があります。今年は春日井福音自由教会と日本バプテスト宣教団 津バプテスト教会での奉仕です。
- 7月16日（水）から夏季休暇開始予定です。
- 7月21日（月）神学塾でOBを含めた夏期講座があります。
- 11月10日（月）女性公開講座を、講師に豊田かな師をお招きしてインマヌエル名古屋キリスト教会で行う予定です。
（塾生主任 檀原久由）

教務報告

- 「収穫は多いが働き手は少ない。だから収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい」
（マタイの福音書9章38節）
- 今年度は信徒奉仕者コース3名、専門科2名、聴講生9名、アドヴァンスコース6名の受講生が与えられています。感謝です。
- 9月27日（土）に「次世代育成者のための研修会」を多治見パローホールで行うことを準備しています。
- 東海聖書神学時塾のホームページから入学の案内や聴講の案内がダウンロードできます。そちらをご利用ください。また、案内をご希望の方は塾にお問合せください。
- 東海聖書神学塾は随時、見学者を受け入れています。入塾前に授業光景を見て見たいという方は、神学塾にお問い合わせください。
（教務主任(教師担当) 鴨下直樹)

2026年度 塾生募集

- 東海聖書神学塾のコースは以下の5つです。
 - 教職志願者コース「牧師、宣教師等に召された人のため/週2、3日の学びで5年程」
 - 信徒奉仕者コース「信徒牧会者・信徒伝道者・教会役員等のため」
 - * 週2日、昼または夜だけの学びの場合は4年程、昼夜の学びの場合は3年程で修了
 - 女性奉仕者コース「教会の女性奉仕者のため/毎週の金曜日の学びで2年」
 - 牧師夫人講座「牧師や宣教師夫人だけのため」/隔週の金曜日の学びで2年
 - アドヴァンスコース「牧師や神学塾の卒業生のため/毎月一度月曜日の学びで1年単位」
 - * 入塾願書をご希望の方は、どうぞ郵便で当塾へご請求ください。{返信用の110円切手同封}
 - ホームページからダウンロードしていただくこともできます。
- 当塾は教会から推薦された献身者のみを受け入れる方針を堅持しておりますので、入塾希望者は必ず所属教会の牧師の指導を受けると共に、教会役員会で召命と献身を確認して頂き、教会全体の支援を受けて入塾できるように準備してください。
- 2026年度の入塾説明会は 2026年 1月 5日（月）3時～ と6時～
 - 同 入塾願書の締め切りは 2026年 2月13日（金）必着
 - 同 入塾試験（筆記・面談）は 2026年 2月27日（金）1時～（全員）